

【総社南】 令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名	岡山県立総社南高等学校		
実践者等	藤原 一朗	実践日	令和4年10月24日
実践場面	歴史総合		
対象生徒（学年等）	普通科1年		
育成を目指す資質・能力	■知識・技能 ■思考力・判断力・表現力等 ■学びに向かう力・人間性等		
分類	授 業 中	■クラウドやアプリの活用 □デジタルデータの保存 ■思考やデータの可視化	
		■データの共有や共同編集 ■対話を充実させる活用 ■思考を促す活用	
		■表現を充実させる活用 □課題のやり取りと評価の支援 □効率化や省力化	
	家庭学習	□振り返り □探究 □反転学習 ■補習・定着	

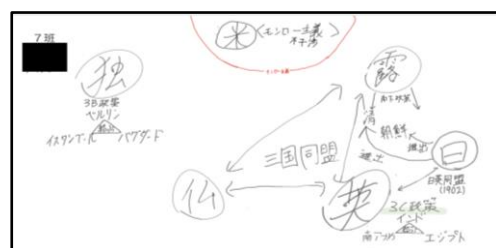
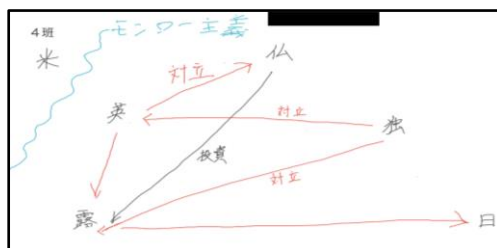
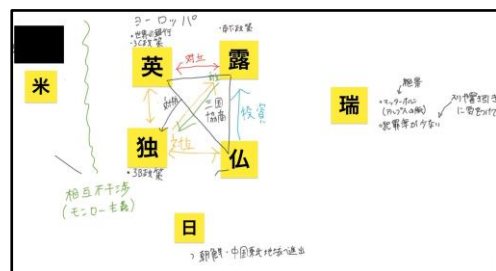
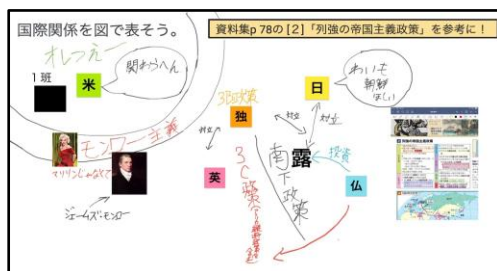
【授業】 資料集の表「列強の帝国主義政策」を国際関係図で表す。

2 列強の帝国主義政策

●国内市場が巨大 ●モンロー主義（ヨーロッパ大陸との相互不干渉） ●イギリス・ドイツ系移民 ●フロンティアの消滅（1890）以降、カリブ海・太平洋へ進出 ●強引な植民政策 ●自由と民主主義の「輸出」 ●東欧・南欧・アジアからの移民 ●独占資本が極度に発達	●イギリスに次ぐ植民地帝国 ●金融資本が強い→ロシアに珍重 ●アフリカ横断政策。インドシナ進出 ●ビスマルクが重化学工業化推進 ●1890年代からヴィルヘルム2世が対外進出推進（3B政策） →イギリス・フランス・ロシアと対立 ●アメリカに次ぐ独占資本の発達 ●農奴制残存→国内市場が狭い ●後進国の弱みをフランス資本の導入で補う ●南下政策→日英独との対立 ●当初はフランス・ロシアと対立 ●政府・軍部との結合→紛争台頭 ●朝鮮・中国東北地帯への進出
--	---

（1）生徒を4人一組のグループ（10班）に分けて、

Google Jamboardにまとめる。



（2）まとめ

各国の間で対立が多く見られることに注目させ、帝国主義時代の列強の対立関係がこの先勃発する第一次世界大戦の要因の1つとなることを理解させる。

【本時と家庭学習との連動】

（本時前）予習として準拠ノートの穴埋めや記述箇所を完成させてくる。

（本時後）授業後「閲覧者」権限で生徒に公開することで考査等の学習に利用する。